



深小だより



学校だより7月号
令和8年7月2日

学校教育目標（合い言葉）『だから』 いっぱい 深良小！



挑戦すること 粘り強く続けること

6月30日未明、午前2時キックオフにも関わらず、ワールドカップ2026、日本代表とブラジル代表の一戦を、手に汗握りながら応援した方も多かったことでしょう。優勝5回を誇る強豪を相手に、日本選手たちは一歩も引くことなく挑み続けました。試合は終了間際まで緊張感に包まれ、後半アディショナルタイム終了直前、最後の一瞬で勝敗が決まるという劇的な幕切れとなりました。結果は2対1の惜敗。とても残念ですが、その内容は、日本が確実に世界の舞台で戦う力を伸ばし、その差を着実に縮めていると強く感じさせるものでした。

この成長の歩みの中心にるのが、森保一監督です。前回大会直後から「世界一」という目標を公言しチームを牽引。思うような結果が出ない時期には、厳しい批判にさらされることもありましたが、それでも森保監督は歩みを止めることなく、「凡事徹底」（当たり前のことを当たり前にやり続けること）の大切さを説き、日々の積み重ねを何より大事にしてきました。自身が目指す「日本らしいサッカー」を信じ続けたチームは、歴代最強とも称されました。苦しい時期こそ逃げず、挑戦し続けてきたからこそ、今の力があるのでしょう。

その時その時を全力で頑張ることは、とても立派です。それを一度きりで終わらせず、うまくいかない日も、悔しい日も、挑戦を続けていくことは、さらに尊く、大きな力となっていきます。最後まであきらめずに戦った日本代表の姿は、「挑戦する価値」「粘り強く続ける価値」を私たちに教えてくれました。

本校の子どもたちにも、失敗を恐れずに挑戦、思うようにいかないときにも踏ん張り、もう一步を踏み出す粘り強さを育てていきたいと思っています。



ご支援に感謝申し上げます

先日、深良地区区長会より教育後援金をいただきました。

子どもたちの教育活動に役立ててほしいと、毎年ご支援をいただいております。心より感謝申し上げます。



子どもたちが安心して生活できる環境づくりにご協力ください

学校には、子どもたちの命と権利を最優先に守る責務があります。近年、見えにくい虐待や深刻化する事例が社会問題となっており、早期の気付きと対応が不可欠です。

万一、虐待が疑われる場合には、「児童虐待の防止等に関する法律」（第6条）に基づき、学校には児童相談所への通告義務があります。これは子どもの安全を確保するための重要な措置であり、決して特別なことではありません。大切なお子様を守るための対応であることをご理解いただき、子どもたちが安心して生活できる環境づくりに、皆様のご協力をお願い申し上げます。